

2021年

## 秋の読書感想文・課題作文優秀作品

### 【小学部・読書感想文】

「人間失格」を読んで

十日市場校 Y・Aさん(三保小)

この物語は、人間に恐怖を抱く大庭葉蔵とその周りの人間関係についての物語である。

最初の一文は「恥の多い生涯を送ってきました。」だった。どんな話なのだろうか…と感じ読み始めた。私も失敗をして恥ずかしいと感じたことはあるが、ここまではつきりと言いつ切るほどの人生は送ってきていない。しかし主人公葉蔵は人間のすべてが怖く、そんな自分を隠すために自分を偽って過ごしてきた。私も友達と話していきまじい時に、よく適当な嘘で流してしまふことがある。だが葉蔵は「いつか自分の嘘がばれてしまふのではないか」と思っていた。表向きは明るく、その心はずっと暗かった。

ある時、同級生の竹一に偽りを見透かされる。緊張とドキドキで…という気持ちには、私も失敗などをして「えっ?」と言われるのがすごく怖いので、とても共感できる。

そんな時代を過ごし、葉蔵は大人になる。堀木と出会い、葉蔵は闇へと落ちていく。しかし、なぜ葉蔵はその自覚がありながら、闇を抜け出さないのか。それは、葉蔵自身が自分のことを「人間失格」と感じているからではないのか、と感じた。人は心が原動力である。葉蔵の心がさらに葉蔵を闇へ落としていったのではないか。私がこの頃の葉蔵の立場だったとしたら、いや、想像すら難しい。葉蔵のようににはなりたくないが、自分を「人間失格」と思い込んでいたのならと考えると分からない。

この物語を読んで私が考えたことは、自分が自分をどう思うか、感じるかで人生は大きく変わるということだ。自分を「人間失格」と思うことがどんなに怖いことか、葉蔵の人生を通して学ぶことができた。自分には相談できる人も助けられる人もいると心に刻み、生きていきたい。

### 【中学部・課題作文】

#### 今回のテーマ

#### 「ジェンダー平等社会の実現に向けて必要なこと」

長津田校 Y・Kくん(田奈中)

オリンピックのBMXの競技を見ると、男子選手が軽々しく行う技を、女子選手ではトップレベルの選手しかできなかったり、スピードやジャンプの高さも男子選手の方がはるかに上だった。男女は平等であるべきだが、男女の身体能力の差は明らかだった。

ところで、近所のかかりつけの眼科や皮膚科は女性医師なので、資料Iのクイズの答えはすぐにわかった。医師は男性と思ひ込む人が多いと知って、自分には意外だった。

資料IIや資料IIIからは、日本は外国に比べて女性医師が少なく、管理職に就く女性が少ないこともわかった。日本は女性が働きにくい社会なのかもしれない。授業参観に来るのは母親が多いし、家事も母親が行っていることが多い。仕事に専念しにくい環境が女性の就業を妨げているのだと思った。しかし、我が家では幼稚園への送り迎えに父が来ることも多かったし、休日には父が料理をしてくれている。このような家庭は少しずつ増えているような気がする。まさにジェンダー平等社会に向けて変わりつつあるのかもしれない。

学校生活の中で、「男だから〇〇してよ」と女子生徒から頼まれたことがある。「男だから」という言葉に違和感があり、嫌な気持ちになった。僕という個性を無視されたと感じたからだ。性別に関係なく、その人の特性をお互いに理解し合うことが重要である。今後は一般的な価値観で判断せず、相手の個性を理解するように努めたい。しかし、BMX観戦で分かったように、男女の身体的能力の差はある。そのような性別の違いによる特性に配慮することも忘れてはならない。

十日市場校 M・Mさん（十日市場中）

ジェンダー平等とは、性別の違いによる差別をなくし、男女を平等に扱うことである。現在、世界ではこのことの実現を目指しているが、多くの人は自分でも気付かぬうちに、男女を差別しているのではないだろうか。

オリンピック前に発覚した女性蔑視発言がその一例である。「女性が多く入る会議は時間がかかる。女性は話が長く、競争意識が強い。」これは、発言者が女性に持っている偏見であり、事実ではない。しかし、このように偏見を事実と思い込むことが無自覚な差別に繋がるのだ。

ところで、資料Ⅰのクイズを見た時、私ははじめに父親が二人いると思った。だが、よく考えるとその医師は女性で母親だと分かる。この時、自分の中に「有名な医師は男性」という固定観念があることに気が付いた。

しかし、「有名な医師は男性」という固定観念を持つてしまうのも無理はない。資料Ⅱを見ると、日本は女性の医師が少ないことが分かる。これほど少ない国は他にない。医師だけではなく他の職業もそうだ。資料Ⅲを見ると、日本の管理的職業従事者に占める女性の割合が僅かであることが読み取れる。女性は出産で仕事を続けられなくなることや男性との体格差で不利な部分もあるが、それだけの問題ではないと私は思う。

今、各国がジェンダー平等を目指している中で、日本は遅れを取っている。今年発表された男女格差を測るジェンダーギャップ指数の順位でも、一五六か国中一二〇位という先進国では最も低い結果だった。

ジェンダー平等社会を実現するには、一人一人が自分も性別の違いによる固定観念にとらわれ、差別している可能性があることに気付くことが必要だ。そして、私も自分が今持っている偏見に気付き、なくしていきたい。

ジェンダーによる先入観にとらわれず、同じ人間として男女を平等に扱える人が増えていけば、日本、そして世界は変わるのではないだろうか。